

# 福井県退教通信

編集・発行所  
福井県退教職員会  
郵便番号 910-8544  
福井市大手2-22-28  
福井県教育センター内  
電話 (0776)23-9191  
第62号

## 全国高齢者集会参加報告

### 「先輩」と呼ばれて

副会長 水間貴子

9月14日、新宿文化センターで開催された「全国高齢者集会」に参加しました。日退教の他に、全国退教、N

TT労退、JR連合退、自治退など、様々な団体から500名が集まりました。立憲民主党代表代行、国民民主党代表、社民党党首が来賓と



して臨席されており驚きました。その三人が我々参加者に向かって「今こそ先輩方の力を」と訴えられるので、高齢者であっても集団として大きな力を持ち得るのだと思われ、「先輩」という言葉の持つ力の妙を感じました。

また一方で、警察庁特別防犯対策監・厚生労働省健康行政特別参与である杉良太郎氏のミニ講演では「あなたは必ず騙されます。あなたは必ず死にます」というショッキングなキャッチコピーで、特殊詐欺対策、健康診断の必要性を印象深く聞かされ、高齢者の弱点をも実感させられた集会でした。

社会保障に関する話については、「この問題は結局財源調達問題、給付先行に歯止めを」(権丈善一慶応大学教授)、「アメリカの最低賃金は約4000円。現役の給料アップの経済体制を」(玉木代表談)など異なる視点での話を興味深く聞きました。

集会後、会場を日本教育会館に移し、「日退教女性参加者の集い」に出席しました。20名の参加があり、それぞれの単会や地域の報告を一人一人行いました。女性役員数の割合を規約に明記しているという取組や、役員選考会のメンバーに女性が少ないこと、女性登用の数値目標さえクリアすればよいと考えている男性が多いといったジェンダー平等に関する課題が出されました。また、現退一致とはうたっているが両者の意識のギャップが大きいという、本会と同じ課題を提示する方もおられました。

時期的に沖縄知事選が終わったところだったので、辺野古の基地問題について熱く語られる方が多く、国政の在り方を憂い行動に移すのに男女の別はないと思われ知らされました。

今回も多くの学びのある会でした。今後は本県のことだけでなく北陸ブロックの実態、情報を収集して、中央の会議の場に臨みたいと考えています

### ご協力ありがとうございました

ユニセフ募金 8,000円  
教育請願署名 7,155筆

ご協力に心から感謝申し上げます。  
ユニセフ募金については、各支部で募金していただいた分をユニセフ協会に送らせていただきました。  
また、集まった署名については、県退教も加盟する「福井の教育をよくするための県民連合」の代表者から、11月18日に県議会議長にお渡ししました。

### 親睦旅行についてのお知らせ

コロナ禍で、親睦旅行は令和2・3年度と連続で中止しました。そのため、昨年度12月発行の退教通信60号で「安全・安心な状況が確認されたところで、案内します」とお知らせしました。その後、令和4年に入り第6波、第7波と感染拡大が起き、また、その間の6月開催の総会で行ったアンケート調査で「本年度は親睦旅行を見合わせるのが賢明」との回答が7割強であったため、事務局会(8/31)で協議し、本年度も旅行を行わないことにしました。  
次年度の親睦旅行については、2月事務局会及び3月代表者会にて、改めて検討し、お知らせします。

### 8月大雨で被災された皆様には 心よりお見舞い申し上げます

8月初旬の大雨は、本県にも甚大な被害をもたらしました。本会会員の皆様の中にも被災された方がおられました。そこで、各支部長様のご理解のもと、事務局会で検討し、ささやかですが、見舞金を送ることにしました。過日、該当地区の支部長様より被災会員の皆様にお届けしました。

ので、ご報告します。  
「駆けつけてくれた昔の仲間や、現職の先生方、生徒さん、たくさんの方々に、後片付けを手伝ってもらい、また励まされて、復旧への一歩を踏み出すことが出来ました」と、事務局に届いた札状に綴られています。



# 県退教会の現状と課題

県退教事務局会

新型コロナウイルス感染症対応が、本年度はゼロコロナからウィズコロナに転換しました。新たな行動制限が公的には出なくなり、社会全体に対面交流の場が拡大しました。

本会も6月の総会(研修会と懇親会は中止)を通常の参加者数で行いました。支部総会の3年ぶり開催を表明するところも多くみられ、徐々に通常に戻るのではと期待感が膨らみました。しかし、7月に入ると、連日、感染数が更新される状況となり、支部総会を自主的に中止するところが続出しました。

感染数は9月以降減少しましたが、本会においては交流事業開催への意識は慎重論が大勢を占めていたため、本年度の親睦旅行は中止にしました。ただし、署名請願活動や退教通信発行は例年通り実施しています。

本会活動方針の柱の一つである親睦・交流事業を会員参加で出来ない状況は活動のねらい達成には痛手であり、今後はコロナ禍等も想定した活動計画を模索することが大切と考えています。

6月の総会で提起された入会者数減少の問題状況は極めて

深刻で、少しずつ減少傾向を示していた入会率が、コロナ禍で拍車がかかり、入会率が退職者数の3割弱にまで落ち込んでいます。会員数の先細りは組織力低下を招くおそれがあり、具体的な対策が必要な事態となっています。そうした事態を受け、入会への敷居を低くすることをねらって、昨年度は『入会金引き下げ』を行いました。今年度は

- ・ 県退教がどんな団体かを改めて示せるようにするなど、現職教職員に本会を認知してもらおう方策を強化する。
- ・ 入会勧誘にあたり、勧誘の流れを整理し直す。
- ・ 勧誘効果が期待できる各支部の取組を共有する。
- ・ 現職の協力を得るための関係づくりに努める。など、入会勧誘のアプローチを整理し直して入会者増を目指していきたいと考えています。

事務局会では、以上のような課題解決の考察を行い、さらに各支部長様の意見も加え、実践に移そうと考えています。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# 教育現場の現状と課題



福井市教組執行委員長 啓蒙小分会 皆川 孝志

市教組の大切な活動の一つに「市教委との懇談会(市教委交渉)」がある。今年も70分会、1366名の組合員の声を聞くところからスタートした。その結果、以下のことについて多くの声が集まった。

- 1 教育施設や教育環境の整備**
  - ・ ICTのよりよい活用のために不可欠であるITサポートおよびGIGAスクールサポーターの増員をお願いしたい。
  - ・ 放送設備、プール、トイレ、手洗い場等老朽化が進んでいる古い設備の改修・新設・増設をお願いしたい。
- 2 児童生徒の指導の充実**
  - ・ 特別な支援を必要とする児童生徒にきめ細やかに対応するため、いきいきサポーターなどの支援員の拡充および、スクールカウンセラー・小学校カウンセラーの時間増をお願いしたい。
  - ・ 通級指導のニーズに応える

- ため、通級指導ができる教員の確保をお願いしたい。
- 3 児童生徒の健康・安全確保**
  - ・ 新型コロナウイルス感染症対策をスピーディーに行うために、迅速な判断と必要な予算付けをお願いしたい。
  - ・ 生理用品の取り扱いについて、目的に沿った配備のためには予算が足りない。現品支給または新たな予算付けをお願いしたい。
- 4 教職員の働き方改革**
  - ・ 勤務時間の削減につながる業務適正化のための調査削減や会議のオンライン化等、具体的な取組のさらなる推進をお願いしたい。
  - ・ 専科指導教員および正規教職員の増員を押し進め、教員一人あたりの持ち時数の削減をお願いしたい。
  - ・ 病休、産休、育休などの代替教員を確保し、代替措置が迅速に行われるようお願いしたい。
  - ・ 部活動の地域移行について、学校任せにならないよ

- う、体制整備、人材および予算確保などへの適切な対応と、今後の指針の明示をお願いしたい。
  - 5 県への要望**
    - ・ 低学年生活支援員の配置基準の見直しをお願いしたい。
    - ・ 再任用教諭の働き方について、多様な選択肢をお願いしたい。
    - ・ 定年延長に向けて、教職員が不安を感じることを無いよう、制度についての周知をお願いしたい。
- 10月11日に行われた市教委交渉では、教育長をはじめ、市教委の皆様から、誠意ある回答を得ることができた。これまでも組合として取り組んできた市教委交渉によって、様々なことが改善されてきている。これからも福井のよりよい教育、子どもたちの笑顔を目指して、ねばり強く取組を続けて行きたい。







門屋 梅治さん  
(福井支部)

〈現職時代の思い出〉

私の思い出は何と言ってもハンドボールです。ハンドボールに関わる思い出はたくさんあり、人脈も広がりました。

始まりは、明倫中学校に在職している20代の時でした。当時ハンドボールはまだどんな競技



菅谷 淑子さん  
(鯖江支部)

〈現職時代の思い出〉

初任校は今庄の鹿森小です。靖国遺児(父親が戦死した子)が数多くおり、この子どもたちを立派に育ててくなくてはいけないという思いを強く持ちました。鯖江の中央中では、生徒を指導する際によく叱ったものでしたが、みんな素直に言うことを聞いてくれました。

# お二人様ですか！

年齢を重ねても、今なおいきいきと活動されている方を訪問し、長寿や豊かな生き方の秘訣についてお話を伺ってきました。

(訪問者・編集委員)

「わかった」「一つできた」という喜びは子どもを笑顔にするものです。

〈多くの人との交流〉

英語教師だった夫の理解もあり、新潟県の村上市との教師交換研修をはじめとして、多くの海外婦人研修の機会に恵まれました。その中で、教育に立ち向かう積極性や国際的な視野に立つ女性問題への情熱を肌で感じ取ることができました。

退職後は、社会教育関係で補導員や観光ボランティア等に取り組む、女性の活動を広めることにも務めました。それと夫と二人で毎年二回海外旅行に出かけたことも楽しい思い出です。



催された北信越大会です。初めて優勝し、なんと胴上げまでもらったことは、今でも忘れません。ハンドボールの歴史の浅い福井県はそれまでずっと辛酸をなめてきました。それが、チームが一丸と

なつて雪辱を果たしつかんだ優勝でしたから、チーム全員の無上の喜びでした。国体にも監督として出場しました。昭和42年の埼玉国体、そして昭和43年の福井国体を初めとして5年間出場させてもらいました。足羽小学校長の時、ハンドボールを普及させるために、門屋杯と称する小学校



同士の大会を立ち上げたことも大きな思い出の一つです。ハンドボールのお陰で人脈も広がりました。日頃接することのない高校の先生や東京の体育大学の先生とも親しくなりました。思い出は尽きません。

〈退職後の今〉

今の私の趣味はドライブ、グラウンドゴルフ、ボーリングです。グラウンドゴルフは長年続けてきて、昨年は県民スポーツ大会で知事から表彰されました。ボーリングは勢い良く投げる時のあのスリルとした気持ちが一番好きです。

〈若い人に〉

運動をお勧めします。運動は足腰を鍛えるだけでなく、血液の循環が良くなり、健康にとってもいいです。是非運動をしてください。

〈若い人に〉

同じ職場のメンバーで話し合ったことが生徒指導や学習指導に大変役立ちました。みんなよく話し合っって、よい方向に変えていくといいのではないのでしょうか。



「日刊県民福井」より





## 日々感謝 今立支部 柳瀬 幸子 (70代)

退職後10年余、101歳の親の介護での多少の苦労はありますが、元気で過ごせていることに感謝一杯の毎日を過ごしています。

退職後を振り返ってみますと、ふとしたきっかけで始めた「読み聞かせ」の例会への参加と活動が、私の生きがい、元気の源となっているのだと、改めて感じています。

地域の図書館・絵本館・小学校、ブックスタートなどで、仲間と一緒に選んだ絵本の読み聞かせをすると、生き生きとして聞き入る子どもたちの目の輝きを感じます。参加されているお父さんお母さん方との一体感も感じます。胸にこみ上げてくるあの感動は私の宝物です。

これからも、本が好きで心豊かな子どもたちがすくすくと育つことを願い、仲間と一緒にできる限り、この活動を続けたいと思っています。

## 今できること 南条支部 大久保典夫 (70代)

各種役員をほぼ終え、今は時間にゆとりができ、残りの人生を悔いなく生きるために、「今できること」を実行しています。

そこで、健康を維持することが肝心と考え、体を動かすこと、人と交わること、頭を使うことの3つを念頭に生活しています。

毎日のようにゲートボールを楽しみ、各種大会などに参加し、水泳やマレットゴルフなどもし、人との交流を深めています。

また、DIYでベンチ・テーブル・棚などを制作し、頭のトレーニングのため、毎日ナンプレをしています。

さらに、何冊か書籍を作成し、今は集落の歴史を執筆中です。こうして充実した人生を謳歌しています。



## 今を生きる！ 武生支部 三田村琢龍 (60代)

「もう少し早く始めておけばよかった」「もっと若い時だったら、もっともっと上達しただろうな・・・」

そんな後悔は、もうしなくなった。今、その良さやその楽しさに気づいて取り組んでいるなら、それでいい！

コロナ感染が始まった3年前、65歳の時に始めた『テニス』に、今、はまっている。月曜から金曜の午前中、好きな時にいつでもできる。

いろんな職種を経験した人、60代から80代まで様々な年齢の仲間。そんな人たちとおしゃべりしながら楽しんでいる。

「腰が痛い」「肩が上がりらん」と言いながら、ボールを打っている。30度を超える真夏も「暑いなあ」と愚痴りながらお茶を飲み、ゲームを楽しむ。健康で体が動く限り、続けていきたい・・・今はそう思っている。

## 現役で今を生きる 福井支部 小林 利幸 (新入会員)

「退教通信に原稿を」の依頼とともにいただいた通信には、「退職して・・・」とか「退職後20年・・・」の書き出しで始まる皆さんの生き生きした姿が語られていました。

しかし我々はまだ現役で今を生きています。65歳年金支給開始は我々世代からです。空白の5年間を埋めるために働き続けているわけですが、今般公務員の定年延長も決まり、今後は段階的に定年が65歳に延びていきます。制度の変更に翻弄されながらも、働ける間は働くことが実は心身の健康に一番良いことかもしれません。

そんな私にとって、休日に農作業で汗を流す時間や孫たちと過ごす時間が何よりの活力源です。徐々にそちらにシフトしていきたいと思っています。田舎に生まれ育ったことに感謝しています。

を  
きる

すばらしい!





## 米作り20年 小浜支部 芝田 友貞(80代)

退職して20年、今では学校関係の情報はほぼ入ってこなくなった。

現職の頃は全く農業と縁がなく、我が家の田圃は長年他者任せできた。退職を契機に人生初の米作り農業を(60歳の手習い)していくことになった。

早速中古トラクターを購入して、肥料撒き、田起こし、代掻きを行ったが、難儀な仕事に思えた。これまで田植えと稲刈り、稲の乾燥と籾摺り、それにJAへの蔵前供出までを業者に頼むという農業を続けてきたが、昨年の春先に古い田植え機を知人から譲り受け、田植え機に乗って初めての田植えを体験(79歳の手習い)することになった。

私の農業は毎年大赤字であるが、それでも正しく自前の玄米を精米して「新米」を親戚、縁者に送り届けることが自分の喜びであり、それを生きがいに日々を送っている。



## 今を楽しむ 三方支部 今村 昌子(70代)

今年1月に、「お互い無事後期高齢者になったお祝いに、手作りのマフラーを送ります」とのメッセージとプレゼントが、小・中・高12年間親密だった同級生から送られてきた。

久々の連絡を喜ぶと同時に、一瞬面食らった。コロンブスの卵だった。

「あーあー、ついに後期高齢者か、若いつもりでいたのに」と嘆くばかりだったが、「そうか、無事元気にここまで来れたことを喜ばばいいのだ」と、気分が変わった。

今は、趣味のコーラスや英会話を楽しんでいる。ボランティアや退職者の組織の係も何とかやっている。今までの私にご苦労様。これからもぼちぼちがんばろう!

6月には、「後期高齢者になって1年間元気に過ごした記念に私が育てたタマネギを送ります」と、彼女へ小包を送った。

## LET'S ENJOY CAMPING!

大野支部 坪田 昌之(60代)

退職後の道楽としてキャンプ活動を始めた。自然の家で活動する子どもたちの支援から始まった活動が、いろいろな出会いの結果、キャンプ協会のお世話をすることに……

近年は、コロナ禍という追い風を受けて空前のキャンプブームである。暇つぶしで始めたつもりが、いろんな事業や活動が続き、かなり多忙な毎日を送っている。

そんな中で楽しんでいるのが「シニアキャンプ」である。

リタイアしたかつての仲間たちが三々五々集まってテントを張り、夜は焚き火を囲んで各自の「キャンプ飯」をシェア。翌朝もコーヒーなどを飲みながらのんびり過ごし、「じゃあまた今度」と言って解散するだけなのだが、これが実に楽しくてハマっている。

LET'S ENJOY CAMPING!



COFFEE

# 今 生き

生きるって

## 放送大学6年生 鯖江支部 内田 吉則(新入会員)

再任用で、退職した時と同じ学校で特別支援学級担任をしております。校長先生はじめ職場の同僚の先生方の理解のもと、子どもたちと楽しく学んでいます。

その傍ら、放送大学の「心理と教育」コースに在学し、現在6年生です。インターネットの講義では、何度も居眠りをしてしまいますが、40年前の大学生だった頃より真面目に勉強しているような感じがします。新しい知識に出会うたびに、なぜかうれしい気持ちになります。

放送大学には、大学を卒業してからも再入学をくり返し、生涯学習を実践している先輩方がたくさんいらっしゃいます。私はまず、1回目の卒業を目指していきたいです。



### 高齢者の方との国語教室

福井支部 荒島 典子

福井に伝わる謎々を一つ「合羽の綿入れとは?」。次に中世の謎々を二つ「いちごいはなし」、「紅のいとくさりて虫となる」。答えは「何ぞ?」。

今年5月、私は高齢者の方と「小学校の授業体験」を通して絵本や詩、謎々を楽しんだ。地元の福井市啓蒙公民館の健康長寿事業『啓蒙大学』の講座(年間7講座)の一つ目『国語教室』である。

さて、久しぶりの教材研究。始めてみると予想以上に夢中になっている自分がいた。使用する教材は絵本以外、部屋の本棚で見つけた。まるで、何十年か後のこの機会のために買い揃えたみたいだ。

最初に、大相撲史上未曾有の最強力士「雷電為右衛門」の講談絵本を読んだ。次に、国語常識問題を数問。続いて、謎々をいくつか考えてもらった。福井、沖縄の謎々から中世の謎々まで。隣の席の仲良しに「〇〇?」と答えを確かめるお年寄り、自信ありげに勢いよく挙手するお年寄り、答えが合って嬉しそうなお年寄りと、懐かしくも和やかな授業風景が目の前に繰り広げられていた。最後に、詩を朗読した。まど・みちお「トンチンカン夫婦」、茨木のり子「汲むーY・Yに一」、新川和江「わたしを束ねないで」。詩集を読み返してみても心に残った詩だ。



この国語教室を終えて、地域の高齢者の方は楽しんでくれたらどうかと心配になった。授業者が楽しんだのだからと自分を納得させている。何より、生き生きと活動する高齢者の方の笑顔から活力を頂けたのが有難かった。

※ 謎々の答え：揚げ豆腐、稚児、虹  
『中世なぞなぞ集』岩波文庫より



### ちむどんどん

勝山支部 友安 多佳子

2年前、Kさんからフジバカマの株を買って庭に植えた。『アサギマダラ』という渡り蝶が飛来する花らしいが、その時は蝶の名前も知らなかった。アサギマダラは東北から遠くは沖縄・台湾まで2000km余り旅をする蝶らしいのだ。

そして秋、アサギマダラが1頭だけ来てくれた。アサギ色をしたアゲハ蝶のようでひらひら舞う姿が愛らしかった。しかし次の年は来てくれず、Kさんから瀬女(せんな)のフジバカマ畑にアサギマダラが沢山飛来していると聞いて行ってみた。休耕田一面にフジバカマが植えてあり、100頭を超えるであろうアサギマダラが蜜を吸っている姿を見て、勝山にもフジバカマ畑を作りたいと思った。

そこで今年の春にKさん親子に提案。Kさん宅の休耕地にフジバカマを植えようと話が弾んだ。瀬女から株分けしてもらい約120株植えた。台風14号が去り、気温が20度を切ってアサギマダラ1頭飛来、昼過ぎにはどんどん増えて40頭を越えた。それから9月末までは毎日20頭余り飛来したので、知人にも連絡をして見に来てもらった。そして時には畑のテントの下でお茶やランチを楽しんだ。

アサギマダラが来てくれることを夢見て、春からKさん親子とフジバカマを育ててきたかいたがあった。そして何よりその作業によって多くの人と知り合いになり旧交も深めることができた。この半年間、久しぶりに『ちむどんどん』することができた。





### 心をつないで

坂井支部 若松 静榮

「心をつないで」これは、先日9月3・4日に開催した坂井市茶華道連盟10周年記念茶会・花展のテーマです。

図らずも、坂井市内53名の教授者とその社中約100名の茶華を学ぶ方々からなる連盟の実行委員長を任せられ、会員の協力を得て重責を果たすことができました。

この活動で私が眼目としたことは、一つに四町合併となって16年の坂井市の茶道と華道に精進する者が心をつないで市民の皆様へ豊かで幸せなひとときを過ごしていただくことと、もう一つは、日本の伝統文化である茶と華の道を生涯学習として、子どもから青年へ、そして高齢者へとつないでいくことでした。

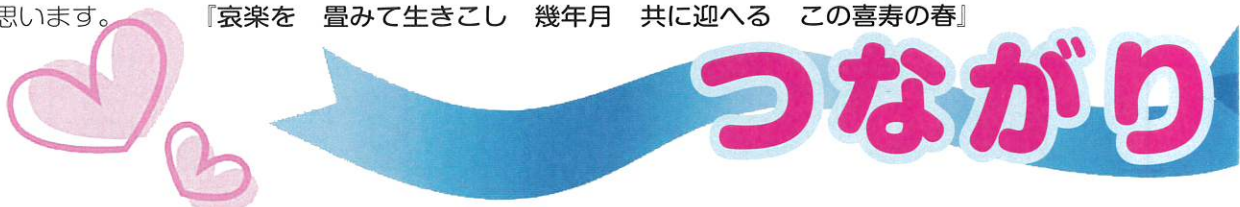
茶席も花展も予想以上の入場者数で、初秋の幸せな時間が流れました。所期の目的が十分に達成され、関係者一同喜び合いました。

退職後17年、今年夫婦共に喜寿を迎えました。孫5人、家族に恵まれ共に健康で趣味やボランティア活動など充実した日々をすごしています。現職中には思いもしなかった色々な世界を知り、いつの間にか地域の多くの人々とつながっていることを実感しています。

12年間携わった文化協会では、事務局長支部長として種々のサークルで生き生きと活動する多くの人達と親密に交わり、地域の文化向上に微力ながらも力を尽くしてきました。

今の私のライフワークは茶道と卓球です。自宅、学校、公民館で子どもから高齢者まで茶道を指導。退職後始めた卓球も今最高に熱が入り、足腰丈夫なうちに仲間と共に各種大会に出場しています。

人とつながることは何にも代え難い幸せなこと。今後も多面にわたってつながりを大切に豊かな人生を送っていきたく思います。『哀楽を 畳みて生きこし 幾年月 共に迎える この喜寿の春』



### 本郷公民館ってどこにあるの？

大飯支部 小原 美弥子

令和2年4月に地区公民館として新設され、館長として配属されました。町民センター内に事務所を置いた公民館で、しかも、コロナ禍によりスタートして2か月間、全ての活動が中止となってしまいました。どこで何をしているのか皆さんに伝わらない状況での公民館開設となりました。

そこで、公民館のキャラクター『ニャン公』の看板を作り出入口に配置したり、公民館だより『ニャン公通信』を全戸配布したりしました。通信の紙面には『地域の人紹介』のコーナーを作り、地域とつながる努力をしてきました。事務所前の小さなロビーには季節の展示を心がけ、少しでも皆さんが立ち寄りやすい所になるように工夫してきました。

そんな中で公民館の活動を支えてくださったのが、地域の皆さんでした。「鯉のぼりや五月人形ならあるよ」と快く貸して下さったり、「ハロウィン用の大きなカボチャはどう？」と持ち込んで下さったりしました。さらに、公民館の様々な活動を企画し支えてくださっているのが、10名の生涯学習推進委員の方々です。感染症が収まらない状況の中ではありませんでしたが、今年7月に公民館まつりを開催しました。委員の皆さんのご協力で500名以上の参加者がありました。今、委員の皆さんは、次年度の計画のために地域の声を知らうとアンケートを実施したところです。

地域の皆さんとパワー溢れる委員の皆さんに支えられて、本郷公民館の活動に更なる深み加わることと思っています。



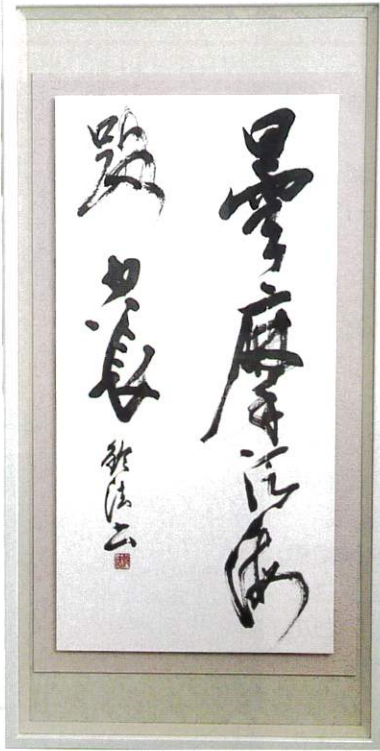


県退教ミニギャラリー作品より

書

律詩「曇摩泛海路空長」

鈴木 幸子(鈴法)氏



写真「水色の夢(多重撮影)」小倉 芳栄 氏



陶芸「越前焼雑器」和多田 訓子 氏



水彩画「四国遍路の旅で出合った仏様」馬場 朝子 氏

◎心に残る作品が出品されています。近くへお越しの折はぜひご鑑賞ください。

◎ご連絡は県退教へ。

◎絵画・写真・工芸手芸品・書・短歌俳句等気軽に出品ください。

ミニギャラリー 作品募集

編集後記

コロナ禍で行動制限が緩和されてきた中、「お元気ですか」の取材を再開しました。元気なお二人に共通することは、多くの人とつながって思いや技を伝えようという強い志です。

この思いを受けて、退教通信が会員のみならず多くの方をつなげる一助になってほしいものと願っています。

また、今年は八月の豪雨で多くの方が災害にあわれました。お見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り致します。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきまして皆様に厚くお礼申し上げます。新しい年が穏やかで心豊かな年となりますように。(松枝恵子・岩田美智恵・平馬吉隆)

会員物語者氏名(敬称略)

(令和4年11月15日現在)

謹んでご冥福をお祈りします。

福井支部

- 長谷川 賢志
- 飛田 桂也
- 水上 秀正
- 齋藤 克彦
- 森下 イツ子
- 田中 昭三
- 山内 正隆
- 坂井 敬市
- 加藤 節男
- 吉崎 一行
- 白越 絹子
- 木戸 鏡朗
- 中橋 治子
- 佐々木 昭子
- 渡邊 輝夫
- 波多野 正夫
- 岸本 輝夫
- 北原 正夫
- 杉浦 夫

坂井支部

鯖江支部

丹生支部

武生支部

今立支部

小浜支部

三方支部

79 94 89 92 95 96 84 86 92 87 92 80 96 85 91 84 93 93 102